

# 「光明皇后臨樂毅論写真帖・日下部鳴鶴旧藏本」

箱書き題字



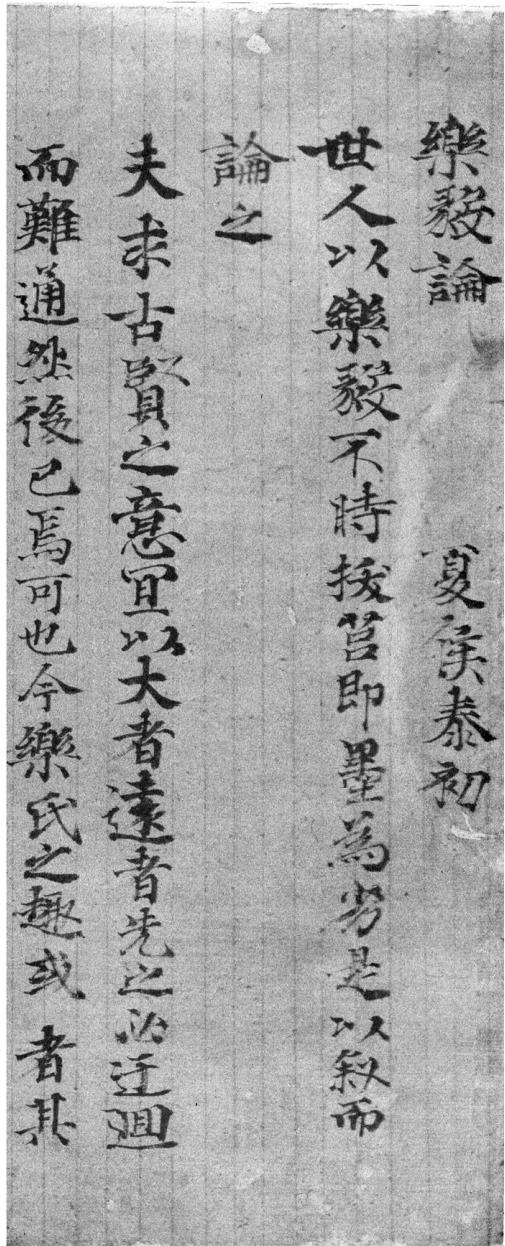
題簽

紫微中臺樂毅論照寫

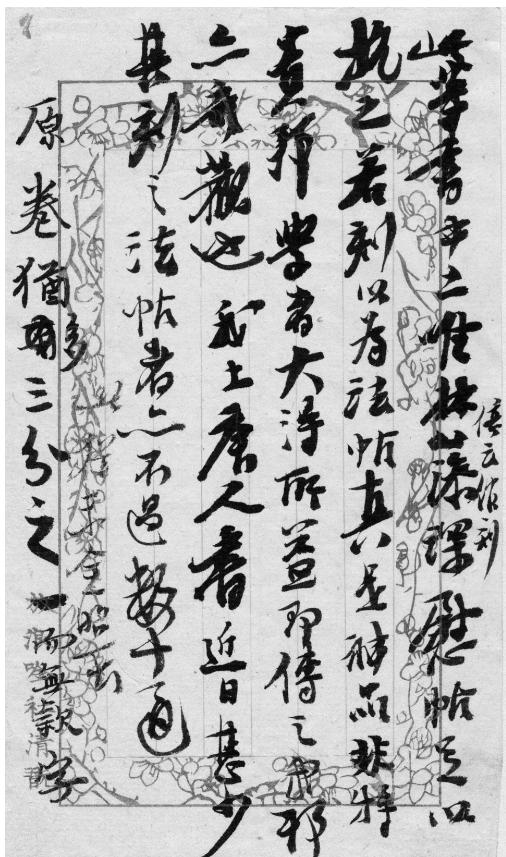


跋文①

光明皇后の臨書とされる「樂毅論」は、日本の古代の名筆であるばかりでなく、書学研究資料としても重要である。今回取り上げた法帖は、近代日本を代表する書家の一人である日下部鳴鶴旧蔵本である。この帖は、正倉院所蔵の真蹟本の写真を張り込んだ折り帖である。帖の題簽には、「紫微中台樂毅論照寫 東作（白文印）」（挿入図版③）とあるように明治初期につくられた白黒写真であり、印刷ではない。この帖を入れた桐箱にも同筆の題字が書かれている。また鳴鶴の所蔵であることを示す「八稜硯齋」の所蔵印も捺されている。巻末には、野線や紋様のある中国の詩箋を用いた跋文らしきものが、二紙張られている。跋文①とした方には、「樂毅論臨本は、聖武帝后藤氏の真蹟で現在は内庫に所蔵され、今からほぼ千百四十年前であり、唐の玄宗の天宝年間に当たる」と忽卒に書かれている。跋文の②は、別の筆蹟で「これらの書のなかで、明の停雲館帖に刻されている林藻の深慰帖が、これらに匹敵するでしょう。もし刻して法帖とするならば、大変優れた



光明皇后臨「樂毅論」



もので貴國の書学に大いに益するところがあるでしょう。これが我が国に伝わることは非常に珍しいのです。我が国では唐人の書は近年大変少なく、法帖に刻して伝來するものでも数十通のみです。これはまだ全体ではないですね。

原蹟のまだ三分の一ほどで、落款がありません。」とある。明治十三年楊守敬が、来日し碑学の新風をもたらしたとされる。紙面の都合で詳しくは言及できないが、跋文①②は、本来この樂毅論の写真を見ながら、鳴鶴や一六等が楊守敬と対話したときの筆談メモである。①の横画や転折の筆勢から鳴鶴でなく、一六等と推測される。

また②は、最後の一行為は全て同筆であり、書風・内容から楊守敬であろう。樂毅論の写真を見せられた楊守敬が、この書の見解を即座に書き記して、示した時ものである。この種の詩箋で同筆の筆談記録が戦前の書道雑誌に紹介されている。当時壯年の日下部鳴鶴は、この折りの記録をこの帖に残したのである。

この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2013)

2013年 青森県展出品作



ふり返つてみて…  
「作品というものは胸をうつものでなければならない」、「いぶし銀の如くキラリと光るものでなければならない」この言葉は書の道に進んで師である鳥



佐藤香山

山岳風先生から言われた言葉です。以来、私の目標でもあり「柱」となっています。

書を習い始めたのは昭和40年代前半と記憶していますが、本格的に勉強しようと思ったのが昭和55年、正に鳥山先生との出逢いでした。私にとって、そこからが毛筆、篆刻、刻字へと御指

導を頂き、書の道へのめりこみました。その時々において、目標を立て、「目標に向かってたら立ち止まるな」と師から励まされ前進あるのみでした。どんなときでも苦しいと思ったことはなく一つ一つの作品に接する度に少しずつ奥深さがわかるにつけ楽しさが増していました。

自分の篆刻、刻字の原点は毛筆にあると思っています。道はまだ〜半ばではあるが師の御指導のもと無我夢中で走りつづけています。

制作するうえで心掛けていることは一 文字の配置、構成においてバランスがよく、引き締っていること

### 二 表現の意とするポイントをおさえておく

三 筆意が刀意でよく表現されていること

と主なるものとしては三つである。

現在はさらに己を向上させるために古典の模倣と創作、古今の作品を巾広く鑑賞しています。芸術的な感性を高め自分なりの表現力の巾を広げるために日々努めています。

まだ〜確立されたものはないが、今まで蓄積されたものすべて何ものにも換え難い自分の財産です。これを基に深遠なる道を一步〜歩み続け、この道を次世代に伝えるために精進して参ります。



## 漢字(六)

佐藤菜扇

対聯をテーマにしようと決めてから手元にある資料を探してみました。訪中した際に買い求めた数冊の本があるのみでした。図録も見てみましたが不十分でした。

先ず、近隣の千葉県立東部図書館・匝瑳市立図書館を訪ねてみましたが、私の欲する資料は残念ながら無いに等しい状況でした。そこで、竹橋の毎日書道図書館に。麻生峰扇先生に来館理由をお話し、資料を探しました。麻生先生に助けて頂きながら数点の資料に辿り着きコピーさせて頂きました。それでもまだ足りず、種谷萬城先生の貴重な資料もお借りしました。改めて、対聯の奥深さを知った次第です。時間が足りず、まだまだ勉強不足ですがこ

れから焦らず対聯についての勉強を続けて行きたいと思います。興味があることではあります。「この作品いいですね。」と言われた時、素材がいいのか、書としてよいのか、どうなのでしょう。読めるように書いているのだからまず読んでもらった後で検索も大いに役立ちます。集めた情報の真偽の確認も大切だと思います。この半年とても良い勉強をさせて頂きまして有り難うございました。

作品は、種谷萬城先生が「北大百年百聯」(北大=北京大学)に出品された時のものを図録より掲載させて頂きました。



## 21世紀の書

—私の主張—

## 現代詩文書(六)

大平邑峰



人が詩文書を見たときどう感じられるのか、最近気になっていることです。「この作品いいですね。」だけ作品に情念が込められていましたが、「言われた時、素材がいいのか、書としてよいのか、どうなのでしょう。読めるように書いているのだからまず読んでもらった後で検索も大いに役立ちます。集めた情報の真偽の確認も大切だと思います。この半年とても良い勉強をさせて頂きまして有り難うございました。

作品は、「北大百年百聯」(北大=北京大学)に出品された時のものを図録より掲載させて頂きました。

今年の正月に都美で開催されたTOKYO書2013での千葉蒼玄先生の作品「鎮魂と復活」は、作品の構想自体驚きだったので、先生の作品に込められた答しているところです。

6回に亘った拙文お許し下さい。

# 第65回毎日書道展総評

辻元大雲

第65回記念の節目を迎えた毎日書道展は、東日本大震災の影響をはねのけて実施された64回展の余波か、若干の出品減となつたが、3万1000点の大台を維持し底力を見せつけた。各部により差はあるが、刻字部・大字書部ではプラスとなり、トータルで250点余の減となつた。我が書道芸術院も70点余の減となつたが2000点の大台は確保できることはほつと一安心であった。詳細は下部一覧をご覧いただきたい。

5月の鑑別、6月の審査も滞りなく行われ、年々鑑別審査の進行手順は工夫されシステムの運行状況も順調であった。会員賞、文部科学大臣賞選考も国立新美術館で行われ、記念展のため公募会友、U23の入賞枠が全て一割増、会員賞は各部一点増の33点（例年は26点）と増枠となり、出品者への大きな励みとなつた。本院関係も同様の入賞増となり有難かった。

全作品対象の文部科学大臣賞は近代詩文書部理事、書灯社顧問の船本芳雲氏が受賞。自作の詩を情感よく詠い上げた快作であった。会員賞は増枠の33点となつたがやはり厳しい閑門であり、前日予備選考を行つた漢字部および近代詩文書部（本年より）を含め7部門での選考の結果、本院より竹本龍汀（漢字部・広島）、川島舟錦（大字書部・高知）、三宅梵（刻字部・千歳会・福岡）、大石仙岳（前衛書部・富山）の4氏が見事栄冠を射止められた。

特別展示は65回記念展にふさわしく

「手島右卿の書芸藝術—その世界性」が国立新美術館1棟を使用し、右卿芸術の全貌を開示し好評を博した。現代書設者であり、精神的な支柱として大きな存在であることから連日大盛況で観者を魅了した。

東京都美術館会場は昨年と同じく理事監事の2作目の他、東京展管内の公募U23入選作が展示され連日大盛況であった。折しも上野の森美術館で開催された「小林抱牛遺墨展」は同会期で、国立新美術館の「手島右卿展」と連動し大きな反響を呼んだ。特に手島右卿作「抱牛」の真作はこの上野の森美術館に特別展示され、国立新美術館では精巧な陶板複製が展示されたのも評判を呼んだ。

東京展の入場者数は国立新美術館が4万5900人、東京都美術館が2万7000人余で計7万3000人余であつた。1週間だけの都美会場の入場者が頑張つており、ほぼ1か月の国立新美会場にはもっと入場者がと望まれるところである。

7月21日（日）午前、ザ・プリンス

◇東京展【国立新美術館】											
前期展Ⅰ期		7月10日(火)～7月15日(日)		後期展Ⅱ期		7月17日(木)～7月22日(火)		後期展Ⅲ期		7月24日(木)～7月29日(火)	
【東京都美術館】		7月31日(金)～8月23日(火)		【東京都美術館】		7月17日(木)～8月23日(火)		【東京都美術館】		7月17日(木)～8月23日(火)	
茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川		山形、新潟、静岡、神奈川の各都県と海外		8月7日(日)～8月11日(日)		8月7日(日)～8月11日(日)		8月7日(日)～8月11日(日)		8月7日(日)～8月11日(日)	
◇関西展 第1会場【京都市美術館】		本館 第2会場【日図デザイン博物館】		京阪、大阪、兵庫、奈良、和歌山、滋賀の各府県		徳島、香川、愛媛、高知の各県		8月14日(火)～8月18日(日)		8月14日(火)～8月18日(日)	
◇四国展 【愛媛県美術館】		8月20日(火)～8月25日(日)		【広島県立美術館民ギャラリー】		鳥取、島根、岡山、広島の各県		8月25日(日)～8月29日(火)		8月25日(日)～8月29日(火)	
◇中京展		8月20日(火)～8月25日(日)		【富山県民会館】		富山、福井、石川の各県		9月13日(金)～9月18日(火)		9月13日(金)～9月18日(火)	
◇北陸展		【山梨県立美術館】		【山形県民会館】		鳥取、島根、岡山、広島の各県		10月2日(火)～10月6日(日)		10月2日(火)～10月6日(日)	
◇東北仙台展		【宮城県民会館】		【山形県立美術館】		山形、福島、秋田の各県		11月12日(火)～11月17日(日)		11月12日(火)～11月17日(日)	
◇北海道展		【せんだいメディアテーク】		【札幌市民ギャラリー】		青森、岩手、青森の各県		9月25日(火)～9月29日(日)		9月25日(火)～9月29日(日)	
役員展		【大丸藤井セントラル】		【北海道】		北海道		10月12日(火)～10月17日(日)		10月12日(火)～10月17日(日)	
◇東北山形展		【山形美術館】		【山形市美術館】		山形、福島、秋田の各県		11月12日(火)～11月17日(日)		11月12日(火)～11月17日(日)	
◇東海第1会場		【愛知県美術館ギャラリー】		【名古屋市民ギャラリー】		愛知、岐阜、三重の各県		12月3日(火)～12月8日(日)		12月3日(火)～12月8日(日)	
◇九州会場		【福岡市美術館】		【鹿児島県立美術館】		鹿児島、熊本、大分、長崎、鹿児島の各県		12月3日(火)～12月8日(日)		12月3日(火)～12月8日(日)	

## 第65回毎日書道展公募出品点数（会友含む）および入賞数

項目	毎日展出品数		書道芸術院出品数		入選数	U23入選数	毎日賞		秀作賞		佳作賞		U23毎日賞	U23新锐賞	U23奨励賞					
	総数	U23	総数	U23			芸術院	芸術院	芸術院	芸術院	芸術院	芸術院								
漢字I類	5,883	232	173	4	4,973	84	2	53	2	123	2	255	9	2	3	12	1			
漢字II類	6,550	466	213	15		82	5	44	1	100	3	192	4	3	4	16				
かなI類	2,068	98	118	7	1,998	55	4	6	1	31	4	178	6		1	1	3			
かなII類	3,003	80	158	5		101	2	33	1	58	1		5	1	1	4				
近代詩文書部	6,354	572	494	41	2,434	260	14	51	4	118	8	236	17	5	6	1	23	1		
大字書部	2,265	245	199	15	872	121	122	14	19	2	43	4	85	8	2	2	10	1		
篆刻部	551	40			225		20		4		10		20				2			
刻字部	933	30	69	3	418	58	15	1	7	1	16	1	33	4			1			
前衛書部	1,610	70	298	36	664	241	35	5	13	4	29	8	57	17	1	1	1	3	2	
合計	29,217	1,833	1,722	126	11,584	1,002	916	47	230	16	528	31	1,056	70	14	0	18	3	74	5

# 特集 第65回毎日書道展

国立新美術館 東京都美術館  
7月10日(水)～8月4日(日)  
7月17日(水)～7月23日(火)

## 会員賞



竹本龍汀  
(漢字部I類)

感のある作品をを目指しました。以前から何度か試みたことのある大きな字のすぐ下に小さな字を持つて来るメリハリのある書風で、自然な余白(空気感)の調和を念じての書作でした。

清書の後、当分の間、書齋に掲げて、

力味がなく、流れが自然で、空間が明るく、比較的意図した感が良く出ていた。清書の後、当分の間、書齋に掲げて、力味がなく、流れが自然で、空間が明るく、比較的意図した感が良く出ていた。清書の後、当分の間、書齋に掲げて、

力味がなく、流れが自然で、空間が明るく、比較的意団した感が良く出ていた。清書の後、当分の間、書齋に掲げて、

力味がなく、流れが自然で、空間が明るく、比較的意団した感が良く出ていた。清書の後、当分の間、書齋に掲げて、

紙、筆は普段使用している台湾画材と羊毛中峰です。墨だけ和墨油烟の宿蕩々と流れる河、大自然が思い浮ぶ詩を選んでみました。

作品表現の上では、あまり深く考えないで、ただ空間が爽やかで、リズム



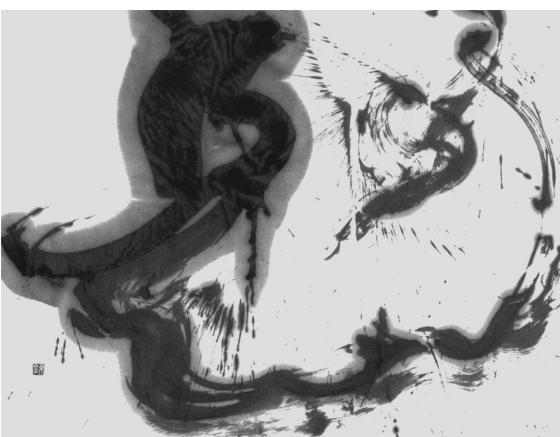
漢字部I類 竹本龍汀

## 会員賞



川島舟錦  
(大字書部)

「やるしかない」と自分自身に言い聞かせ、しっかり前を向いて、今から新しい第一歩を歩みだそうと思います。先達の皆さまにならい、ぶれることのないようできるだけ視野を拡げて物事を見たり、思考できるように…。



大字書部 川島舟錦

## 会員賞



刻字部 三宅 梵

三宅 梵  
(刻字部)

遙かな悲願と希望であつた会員賞を奇しくも受賞しました。

受賞の喜びよりも、責任の重大さを感じています。刻字を始めて40余年、刻字を志すなかまを増やして、九州での礎を築きたいものと進んでまいりました。「我が、我が…」ではなく、広く門戸を開いて同じなかまと交流・親睦してこそ、刻字の未来の発展があるものと考えて続けてきました。

刻字を志す者が、互いに手を携えてこそ刻字の発展があります。自分のながまだけの小さな競い合いを捨てて、大きく大同団結することを呼びかけます。書道芸術院の刻字部門がより広く拡がることを願っています。

少しでもみなさんのお役に立てるよう努力したいと思います。

## 会員賞



前衛書部 大石仙岳

大石仙岳  
(前衛書部)

この度、第65回毎日書道記念展において「会員賞」受賞の榮誉を受け誠にありがとうございます。今、賞の重さに実感しております。

継続は力だといいますが、毎日書道展の会員として30余年、私自身、今日までよくも続けてこれたものと振り返っています。これもひとえに、書道芸術院の先生方はじめ浜谷芳仙先生、社中の仲間、そして家族のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

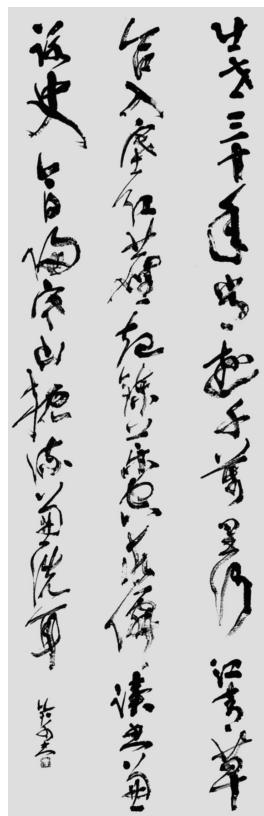
今回の作品、「吳」の文字の持つ意味に負けないよう、「ダイナミック」「迫力」「躍動感」をと制作しました。身に余る賞に恥じないよう、これらも、なお一層の研鑽に努め、一步づつ積み上げていきたいと思います。

今後共よろしくご指導くださいます。ようお願いいたします。

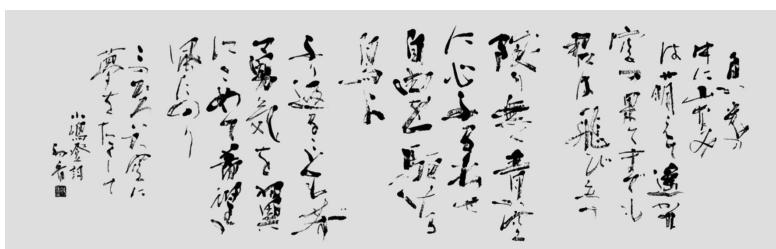


大字書部 正木 美奈子

毎日賞



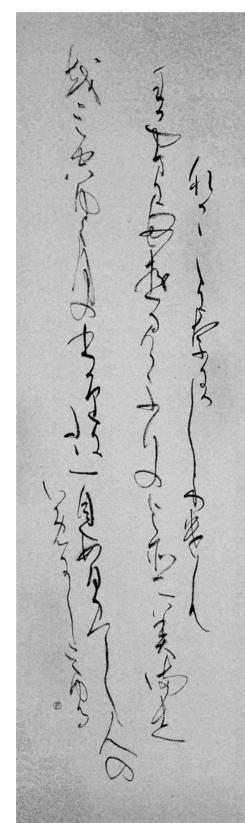
漢字部Ⅰ類 田口 鈴水



近代詩文書部 佐藤 初香



前衛書部 佐々木 蓮峰



かな部Ⅱ類 田代 明眸



刻字部 田代 明眸

毎 日 賞



漢字部II類  
伊藤里祥



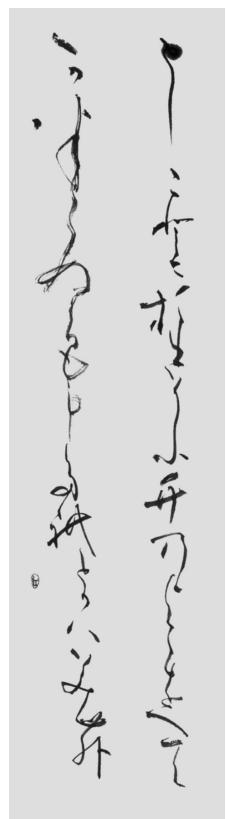
近代詩文書部 北嶋青湖



近代詩文書部  
白地清柳



前衛書部 上路彩炎



かな部II類 星野紅咲

毎 日 賞



前衛書部 三木 彩月



大字書部 武部 春浦



近代詩文書部 三宅佳峰



漢字部 I類 高山紅苑



前衛書部 坂井初江

# 秀作賞受賞者

# 佳作賞受賞者

## ・刻字部

大沼樵峰 小林古径 佐藤紫水  
安田憲子

## ・前衛書部

相内菜摘 細井京花

## ・前衛書部

相内菜摘 細井京花

## U 23 新銳賞

井上恵子 遠藤華香 工藤山房  
斎藤白鳥 佐藤輝子 佐藤蓮耀  
鳴由香 鈴木栄洋 高須賀則和  
高橋蘭花 田名部茜香 中塙朱華  
名取雅子 大羽美恵子 藤丘茉夷  
大和和香 和田敬子

## ・漢字部(Ⅰ類)

北爪美沙希

## ・近代詩文書部

茂木絢水

## ・漢字部(Ⅱ類)

藤村昌子

## ・前衛書部

山口翠華

## ・漢字部(Ⅰ類)

小林琢磨

## U 23 奨励賞

大野清玉 乙倉翠芳  
國嶋一春 国吉真雲  
坂本龍水 佐藤華炎  
嶋田麗雲 佐藤翠夢  
高橋四蓮 長島櫻雨

## ・漢字部(Ⅱ類)

熊谷祥山 佐藤光耀  
佐藤正城 佐藤翠夢  
水野大祐 若田文邑

## ・近代詩文書部

秋山之扇 大野清玉  
金濱珀燐 國嶋一春  
坂本龍水 佐藤華炎  
嶋田麗雲 佐藤翠夢  
高橋四蓮 長島櫻雨

## ・漢字部(Ⅰ類)

柳 隆扇 山内奏燕

## ・漢字部(Ⅱ類)

揚田正瑚 久保春玉  
小林桃華 寺内宏山  
平倉明楓

## ・漢字部(Ⅰ類)

小金井恵美

## ・漢字部(Ⅱ類)

尾上昭代

## 特集：第65回毎日書道展



大勢で賑わう懇親会



会員賞受賞の3名

## ・漢字部(Ⅰ類)

奥原翠嵐 竹浪叙舟  
田畠明琴 仲倉恵堂  
松下紅月 松田藍華  
松本深泉

## ・漢字部(Ⅱ類)

青木藤漣 金子美千 菊池昌春  
稻村由宇記 田村玲子 浜田芳江  
藤井如清

## ・かな部(Ⅰ類)

上田琴秀 熊谷桃華  
池内岳城 上田琴秀  
田畠明琴 仲倉恵堂  
松下紅月 松田藍華  
松本深泉

## ・漢字部(Ⅱ類)

大槻柏秀

加藤雅芳 加藤紫翠  
横井正江

## ・かな部(Ⅱ類)

岡部照芳 栗原信子 仙場美枝子  
高橋正子 角田公子 松岡啓子  
藤原三枝子 松本泰子

## ・漢字部(Ⅱ類)

赤羽恵舟 飯高幹生 白井真理理  
鈴木承琳 錢谷雪蘭 奈良清扇  
波多祥舟 南千鶴子

## ・近代詩文書部

清水喜代子

## ・大字書部

掛水美翠 小林椿寿 谷口青龍

## ・刻字部

水田春峰 鈴木善見 錦藤彰仁  
佐藤花梢

## ・前衛書部

安藤楊風 小野朱星 小野寺三枝  
金井みどり 鈴木善見 須藤彰仁  
塙本真由美 野口加奈

## ・漢字部(Ⅰ類)

柳 隆扇 小林青峰  
佐藤花梢

## ・漢字部(Ⅱ類)

安藤楊風 小野朱星 小野寺三枝  
金井みどり 鈴木善見 須藤彰仁  
塙本真由美 野口加奈

## 雁塔聖教序（唐 褚遂良）③

〈解説〉

六朝期から発展しつつあった楷書を高度に完成させた南派の虞世南・北派の歐陽詢の書風の特徴を吸收・融合しながら、それを乗り越えて独自の書風（「褚法」）を確立した。「雁塔聖教序」は褚法の最も完成された姿を示す

す晩年の最高傑作である。繊細で行意を帯び、抒情的で抑揚に富む。用筆の彈力性があつて、線の太細、強弱の変化を極めている。余白を意識して懷が広い。

(編集部)

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは〇〇臨  
(押印のみも可)



未足比其清華。／仙露明珠。詎能／方其朗潤。故以

## 漢字研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

## 特別研究部臨書課題

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

## 筋切

(伝 藤原佐理)

③

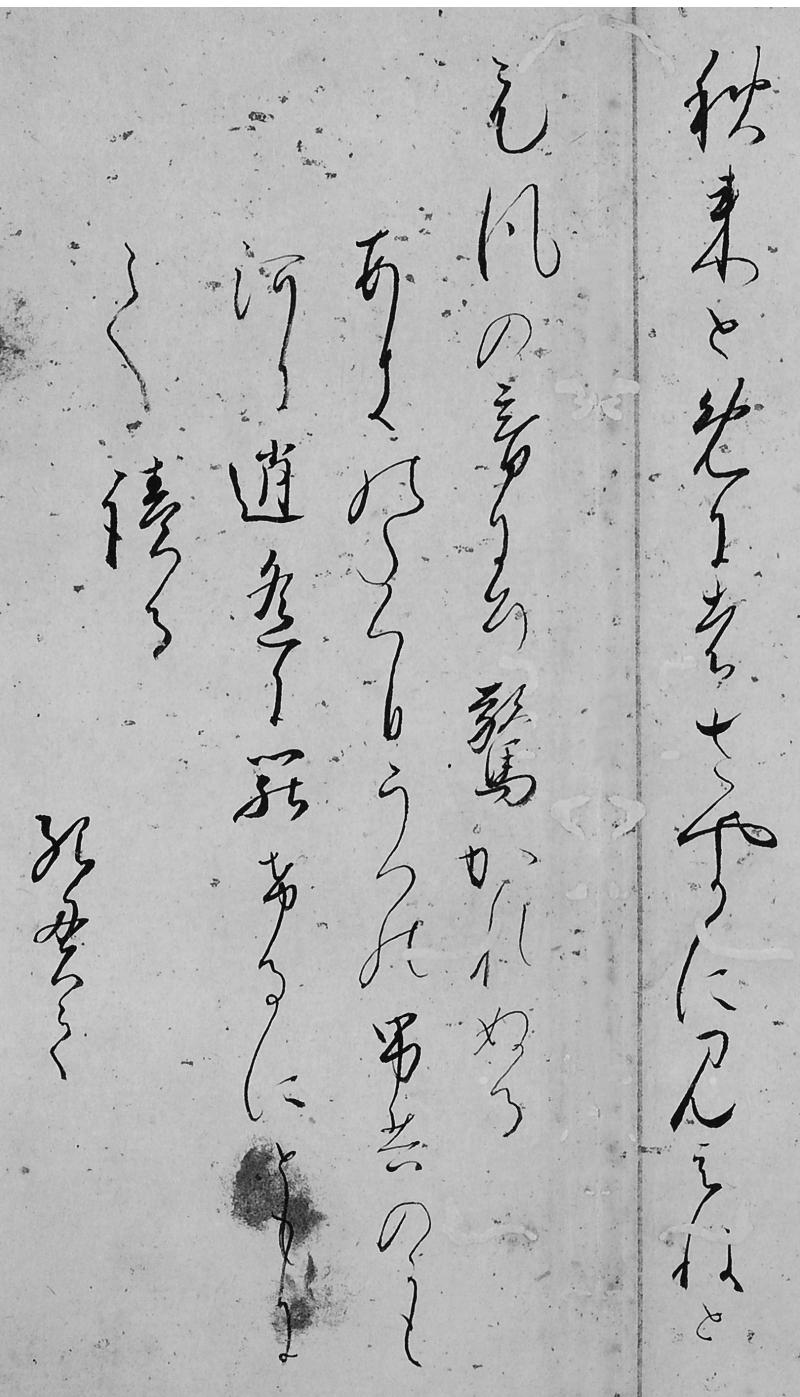
⑭

&lt;よみ&gt;

秋来とめにはさやかに見えねど  
も風の音にぞ驚かれぬる

あきのたつ日、うへの男共のかも  
河に逍遙に罷けるにともにて読る

紀貫之



(90%縮小)

&lt;解説&gt;

筋切の料紙に用いられる飛雲は、鳥の子に藍と紫の織維を滲き込んだものである。日本の、ことに関西あたりの晩秋の夕焼けに照らされる雲の情景を表現したものと考えられている。この飛雲紙の雲の形や滲き込まれる織維の多寡はさまざまであるが、制作技術は早くに失われ、現存する遺品は十世紀から十二世紀までに限られる。これらを書写した筆者は藤原佐理と伝称するが、今日の研究で、三跡の一人として著名な藤原行成の曾孫・定実の筆と推定される。

「元永本古今和歌集」(国宝、東京国立博物館)などの同筆遺品を残した当代屈指の能書であった。清楚で華麗な飛雲紙に、織細で優美変化に富んだ筆を、織り込んだかのような品のいい美しさは、平安朝貴族が理想とした美を表現したものである。

## かな研究部臨書課題

- 競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。  
(全臨も可)
- 用紙は半紙普通判(料紙可)  
<たて長に使用>  
別紙を裁断して貼付也可。  
半懐紙は、半紙サイズに切って使用のこと。

## 特別研究部臨書課題

- 毎日展公募サイズ以内・縦横自由  
・左記の掲載以外も可

\*落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみも可)

習い方解説 (六)

小竹石雲

一輪池上明  
(袁枚)  
(一輪池上に明らかなり)

一輪の月が池の面に明るく輝き  
わたつている。

今回で最後になりました。初心  
に立ちかえり、のびやかで大らか  
な健康的な作品を心がけました。

筆管のやや上部を持ち運腕を大  
きくし、明るく澄みきった線にな  
るよう小細工をせず堂々と書いて  
みました。特に転折では毛先を大  
切にあつかうことで、無駄のない

切れのよい線が生まれてきます。  
全体構成では「輪」を逆三角形  
にし、下部を絞り、「池」で安定

よく一行目をしめ、二行目の「上」  
は少し縦長にし、「明」は大きく  
空間を包みこむように「輪」との  
バランスを考えて書きました。

一輪池上明 よみ(一輪池上に明らかなり)

書体=自由



習い方解説 (六)

東福青篁

冲靜得自然  
(冲靜自然を得)

(文帝)



書体＝楷書

「落着いて静かに人工の加わらぬ自然を得る」の意味です。

草書で書かれた孫過庭の書論・書譜の冒頭にある「漢魏に鍾・張の絶あり」の鍾繇・薦季直表を参考に致しました。

王羲之より150年程遡り、三国時代です。

息を長くゆったりと運筆し、筆先を利かせて厚みのある線や、古意豊かで温厚な線質を心掛けます。

楷書にはつりあいのとれた、構造的な美しさがあります。

すばらしい古典から、楷書にも沢山の表情の違いがあることを学びましょう。

冲 静 得 自 然 よみ(冲静自然を得)

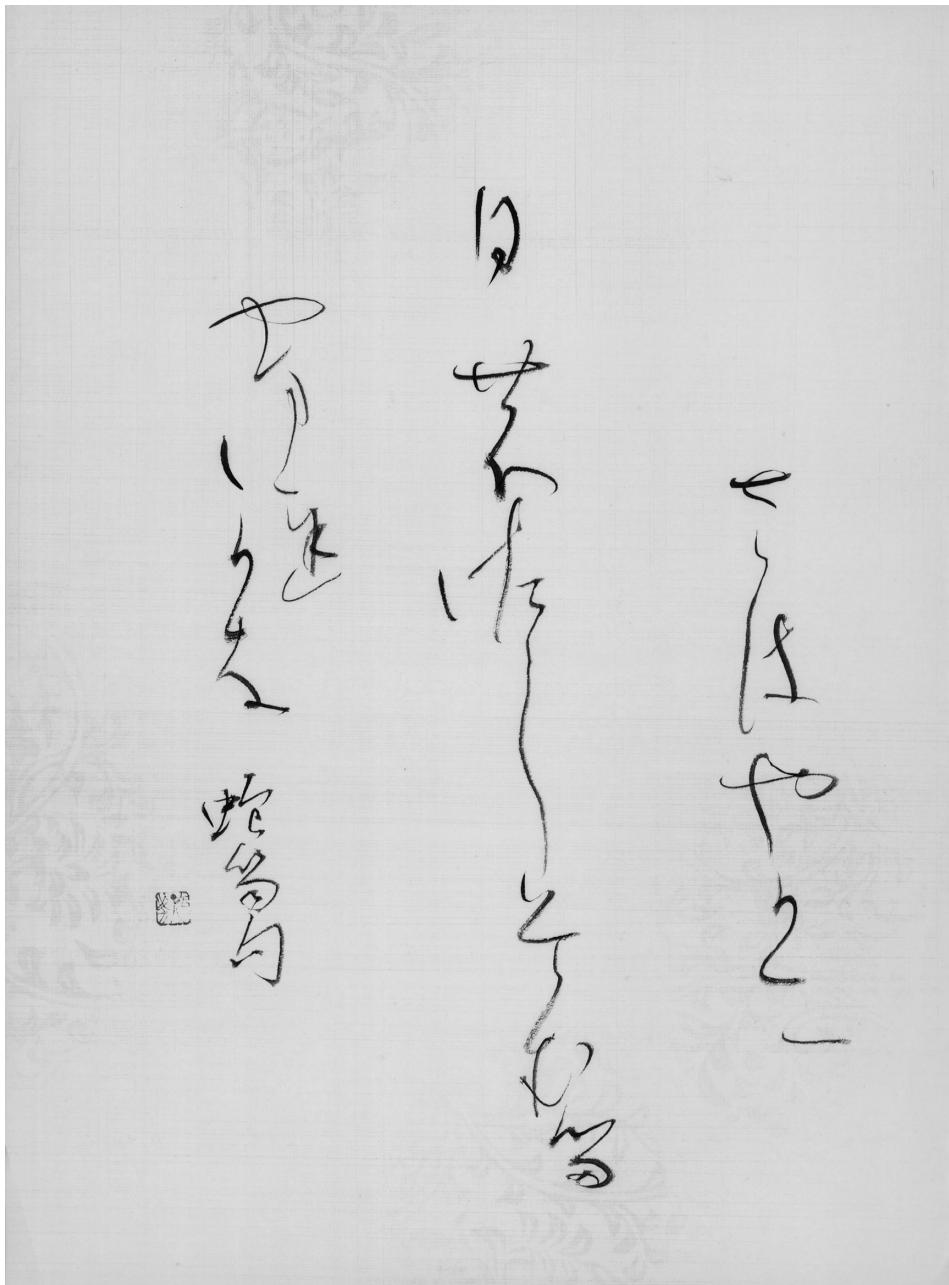
かな規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

### 習い方解説 (六)

大辻 多希子

爽かに日のさしそむる山路かな  
(飯田蛇笏)



よみ方 さはやか(可)に(一)日の(農)さ(佐)しそむる(留)やま(万)ぢ(遲)か(可)な(奈) 蛇笏句

創作

半紙に俳句を書く時、まず紙面に余白が多くならないように注意したいと思います。今回の作品は縦に伸びるしや、横に張る変体がなを活用して構成しました。

短い行を二行に配置し、作者名を用いることで紙面が豊かになるような作品とし、また読みやすい語句で行を組立てました。

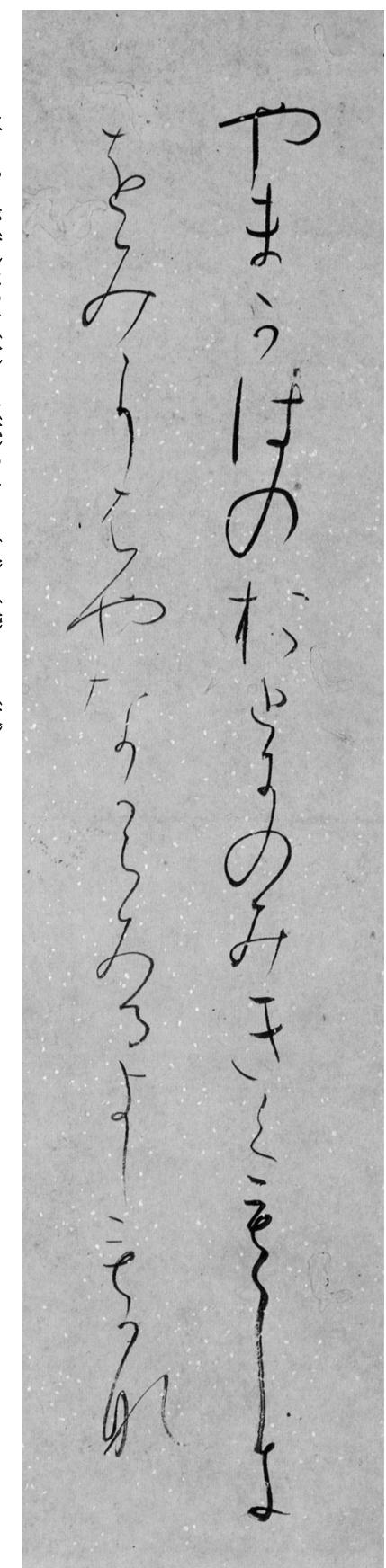
歌の語句には、一語一語切れ目がありますが、散らし書きとして構成の都合で書く時には、紙の大さや、行の組立てなどによって一語が二つに分かれて次の行へいつたり、一句が途中で切れて二行目にわたることもあります。

連綿も字の組合わせを自分で換えて書いてみる試みを楽しんで創作して下さい。

かな規定 秀級以下 【十月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全體、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切 第三種  
(掲載写真縮小93%)



よみ方 やまが(可)はのお(於)とに(尔)のみく(久)も(毛)ゝしき(支)  
をみを(平)は(者)やなが(可)らみるよしも(毛)が(可)な(那)

かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

見越雪枝選書

習い方解説 (三)

見 越 雪 枝

菊の香や奈良には古き仏たち  
(松尾芭蕉)



芭蕉、奈良での吟  
半切縦の俳句は、余白が大切と  
考えます。左右に動く、縦に伸び  
る、デフォルメを行なうなどと、  
作品全体が立体的に活きてきます。  
潤筆、渴筆も重要な要素です。

よみ方 菊の香や奈良には(尔)は(入)ふるき仏(佛)た(多)ち(連) はせお(越)句

創作

\*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

村山元信選書

## 習い方解説 (六)

村山元信



彼澤之陂 有蒲菡萏 有美一人 積大且儼 寢寐無爲 輾轉伏枕 (陳風・「澤陂」第三節)  
（彼の沢の陂に、蒲と菡萏と有り。有美なる一人あり、碩大にして且つ儼なり。寝めても寐ねても為す無く、輾轉して枕に伏す。）

書体＝自由  
出品券  
貼付位置

課題としては初めてかもしませんが、たまには横形式の漢字作品にも挑戦したいものです。課題は制限字数最大の二十四字。参考作品はひとつの例ですが、縦形式の作品よりいろいろ変化させられる楽しい作品づくりができます。行数を変える、一行の文字数を変えるなど試みてください。横形式の表現は縦形式とその呼吸がまた違うということも学んでください。

\*よこ形式に限る

## 習い方解説 (六)

前田龍雲

漢字条幅規定 秀級以下【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田龍雲選書



菊酒除不祥  
(菊酒は不祥を除く)

(楊凌)

書体＝自由

今月で最終です。今まで古の倣書のようなものばかりを参考手本にしましたが、今回は少しだけ古典から距離を置き、自由に書いてみました。といっても全く自由に書くと下品になる恐れもあるので注意を要します。基礎を踏まえたうえで楽しく書いてみてください。

意味は「菊花の酒(重陽の節会に飲む酒)は人を長寿ならしめる」です。

習い方解説 (六)

川島舟錦選書

夕焼け、焼けて日が暮れて

山の古寺の鐘かなう、お手々

つなげて、皆帰らう、鳥と

一緒、に帰りま

舟錦書

漢字と平仮名を調和させ、緩急やリズムを意識しながら、慣れるまで練習するうちに、気脈もでできます。「ペンに慣れること」「継続すること」が大切だと感じます。

何十枚書いても飽きない文章を選び好きな音楽など聞きながら気持ちよく練習したいものです。

秋の一日が終わる頃、田舎道を歩くといつも「あんさん」といっているのが「夕焼け」…ああ、きれいな夕日、明日もがんばろう!と勇気をもらいます。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

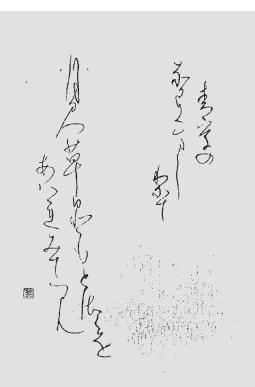
用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

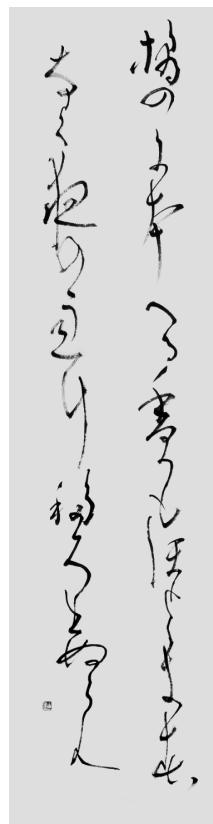
今月の

ホープ作品  
各部総評 No.627

かな部 師範 山本田美子  
計算され尽したに違いないのに、  
フワッと生まれた感じの趣です。  
◎かな部総評 上級者にも字粒の  
小さすぎる作品が多く残念。変体  
がな佐の誤字、青、草の読み誤り  
は解説の理解不足か？（明子評）



漢字条幅部 師範 鶴山 美相  
漢中の摩崖碑を連想させる。線  
がのびやかで、ゆったりとした隸  
書。温厚な書風が心地良い。  
◎漢字条幅部総評 草書作品が多  
く見られたが、誤字や不正確な字  
も目立った。字典を調べて実な字  
形での制作が大切です。（萬城評）



かな条幅部 師範 倭田由美子  
歯切れよいタッチで手本をよく  
解釈し、用筆、リズム共素晴らし  
い。少しづつ独自作手掛けたい。

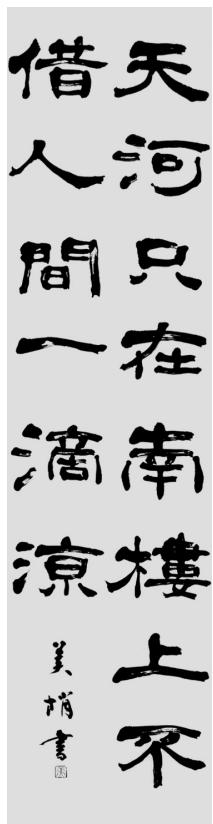


◎かな条幅部総評 名前を入れる  
時は、漢字のように左中央に独立  
して記すのではなく、最終行との  
調和を考えてほしい。（洋子評）



現代詩文書部 特選 田中 梢翠  
雨天がカラッと晴れあがったよ  
うな作風。一行目の重みを二三行  
目でカバーし空間表現が美しい。  
◎現代詩文書部総評 構成が一バ  
ターン化。筆持つ前にデッサンす  
る事も一つの考え方。（素雪評）

前衛書部 特選 岡田 裕子  
重厚な運筆で構成もすばらしく  
紙面を圧倒している。大作への展  
開が楽しみである。  
◎前衛書部総評 作品の数は安定  
してきているが更なる線質、素材  
の追求を望みます。（仙草評）

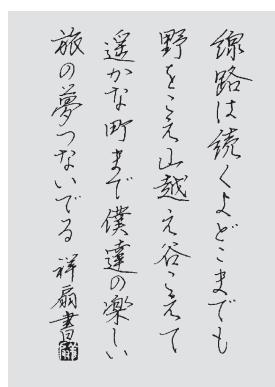


ペン字部 師範 佐藤 祥扇

リズム感良く、一気に書き上げ  
た作品。躍动感、勢いがあり、紙  
面全体のバランスが絶妙である。  
◎ペン字部総評 手慣れた感じで  
達者に早書きする作品が多かった。  
筆圧の妙、緩急の変化を意識した  
作品を心がけてほしい。（鄭街評）



漢字部 師範 阿部 青沙  
飘々とした大らかな表情が柔ら  
かな雰囲気を醸し出し、淡墨によ  
る潤滑の変化がリズムを生む。  
◎漢字部総評 上級者文字造形の  
不確かさが目立つ。運筆のリズム  
と造形は微妙に連動する。別もの  
ではない。下級も同様。（大雲評）



ペン字部 師範 佐藤 祥扇

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

現代詩文書

(白珠) 上路彩炎 「和寿の詞」



上路彩炎書

135×35cm

漢字 (奥田) 小林純風 「暁起」

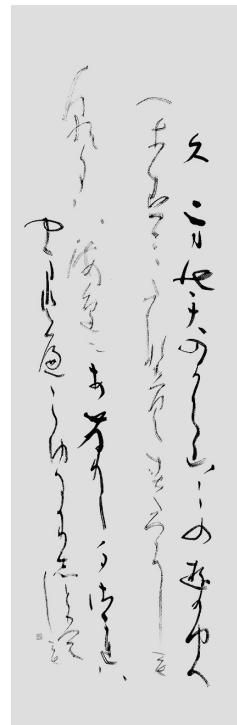


小林純風書

180×60cm

かな

(八街) 井上芝雲 「万葉二首」



172×56cm

(八街) 井上芝雲 「万葉二首」

◆二本組の筆使用か、上部の潤渴、破筆が独特的のリズムを醸し出している。やや煩雜な感あるも冴えた作。

(大雲評)

◆洒落たセンスが目を引く。かながやゝ弱い感あるが、フレーズごとの間で濃墨の潤渴により光が入る。

(洋子評)

◆濃墨とかそれで紙面を生き生きと構成し大きさを与えてくれ出している。それに会わせて線の変化も面白い。

(倫子評)

◆条幅縦形式を詩情豊かにまとめた。やや読み難いが超濃墨を用い余白を生かしている。

(翠風評)

◆濃墨とかそれで紙面を生き生きと構成し大きさを与えてくれる。それに会わせて線の変化も面白い。

(倫子評)

◆潤渴のバランスよく流れがある。横に広がる字形も今後工夫されたい。遊印の位置は一考の余地あり。

(翠風評)

◆大胆な二行構成で勢いある作。やや粗さがあり立つが意欲を買う。細字部分洒落ているがやや煩い。

(大雲評)

◆大きな筆の動き見事、終筆と次の始筆とのつながりが途切れ所が全体の動きに影響を与えた感。

(倫子評)

◆詩文書のような構成が面白い。筆触は大胆且つ大らか。やゝ急ぎ過ぎた箇所も窺えるが熱気が魅力。

(洋子評)

◆渴筆が少々もの足りないが、バランスよく巧みにまとめた。間の取り方と穢やかな線質に惹かれる。

(洋子評)

◆流れるように書く事で墨の変化に無理のない動きを表現し美しい作品。ただ、かすれた墨の時一工夫を。

(倫子評)

◆柔らかな筆致で流れよく歌一首を表現。潤渴のバランスもよく味ある作。やや甘すぎる感もある。

(大雲評)

井上芝雲書



漢字研究部  
(雁塔聖教序)

選評名越蒼竹

今月のホープ作品



岩井颯雪

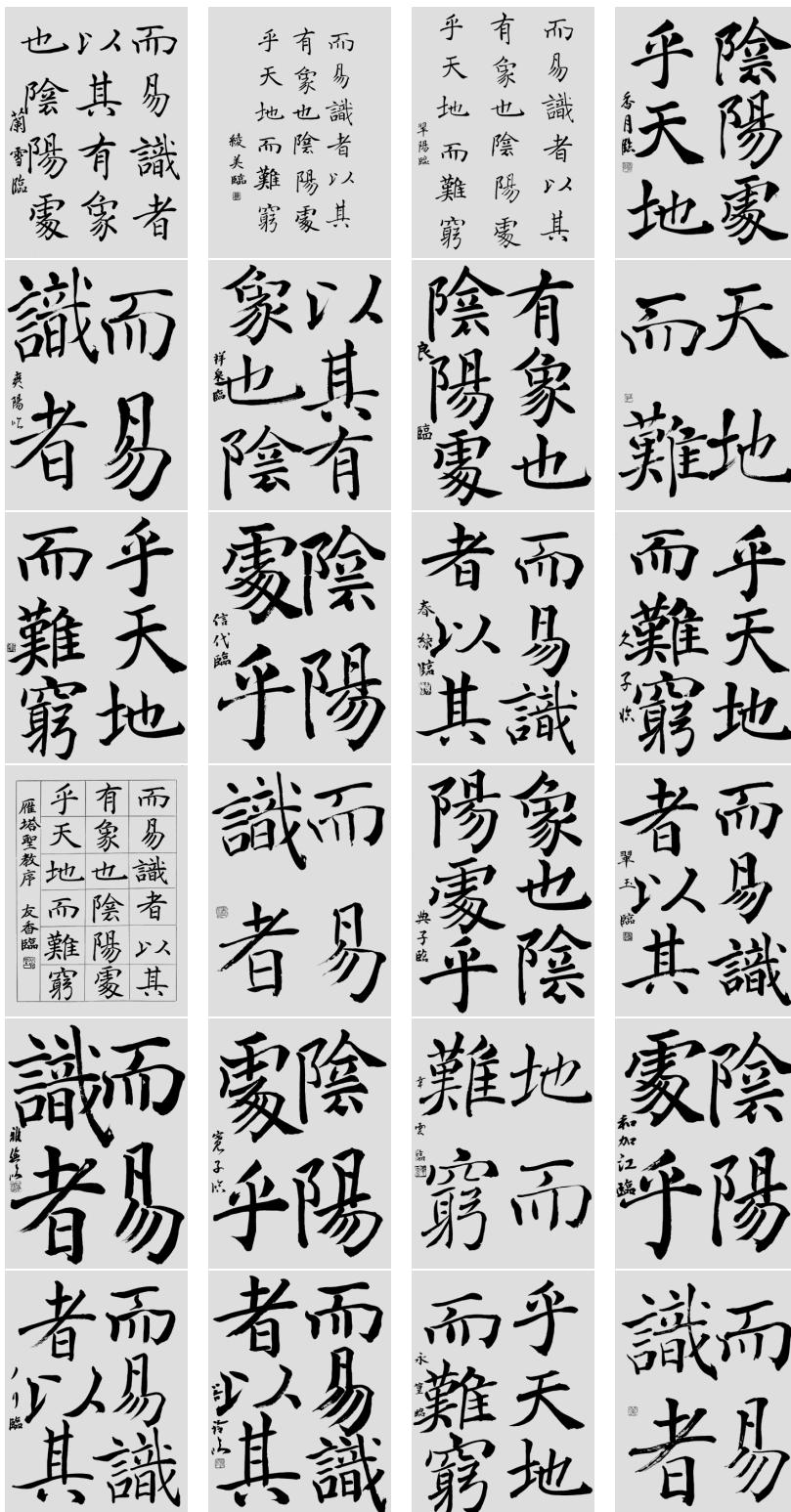
漢字研究部 総評

俯仰法をマスターし、丁寧な運筆とやと響きのある線質で、明るい作品。起筆の方向や点画の接し方に細心の注意が見られる。羊毛長鋒と濃墨を使っての臨書の場合、ややもすると筆先の立ちが困難だが、見事にできている。

◎漢字研究部 総評

臨書作品の審査のポイントは、まず古典の用

筆運筆に関する理解と再現性、次に結構法や文字に対する線の太さの正確性、半紙にまとめる上での章法となります。最後に練度完成度の総合力となります。いくら字が達者でも第一段階ではじかれてしまうものが散見されることは残念です。また良い章法とするためには、書く文字数によって臨書する力所を吟味することも必要です。落款が本文に比して多くなるないように気をつけましょう。



ノ雅友依爽蘭香  
リ悠里未陽雪

谷寛清信祥綾  
玲子耀代泉美

永幸典春良翠  
篁雲子綠子陽

雁塔聖教序  
友春臨

信代臨

春綱臨

子林

羅生山

寛子林

和加江

玉子

雅友依爽蘭香  
リ悠里未陽雪

寛子林

和加江

玉子

ノ雅友依爽蘭香  
リ悠里未陽雪

寛子林

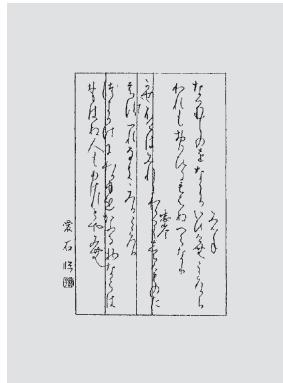
和加江

玉子

かな研究部  
(筋切)

選評 田村澄子

今月のホープ作品



松丸愛石

◎かな研究部総評  
この筆者の書風は漢字と仮名の調和に優れて、極めて多様性に富んでいます。墨色、筆の運び、そして景色見事に素晴らしい作品にしました。

石彩や A 大澄竜 習ま I 雲春泉 秀	も秀竜前石彩蘭幕紅高大竜う蓮彩竜華 A 紅千上秀竜玉石 く故泉橋習 鼎張苑崎雲泉る紅 泉祥 I 蕤葉泉州水泉松習
犬伊伊磯飯浅作 銅藤東藤貝鳥み 道敏京寿清繁な 子石子耀苑江	青長櫻春内岸川林茂松堀泉飯本大高山藤鈴平山門後権松 木島田山田田崎 木浦切水高田鳴橋崎村木山縣脇藤本丸
白昌竹や竜硯 露苑美ま泉水	藤一龍勝皓東優玉真玉幸龍幹美信雅桜昌智彩令信良紅愛 漣水貞美泉子子華蘭江雲生雪子泉江子広華子子泉霞石
松村佳	た玉は書郷竜幕正竹高竜奥大広英幕千竜華安玉秀昭澄秀竜 か松せ泉州泉張華美崎泉田雲島峰張葉泉祥波松明微春明泉
阿久澤隆華作 八重翠蘭律龍草敏永千久ど都花賢麻智恵知純玄紫彩惠雲龍雅久彩喜華祥洋貴 春鶴君子子綾舟子博秋子莖峰子り子泉雲美舟子子風城蘭雨舟卿芳美香代泉園子泉	渡吉横山森宮三浜長都宅高高佐櫻酒後小高熊吉北神加小加大小宇岩岩今 辺田山口田澤鷗野谷丸山橋藤田井藤林武谷瀬村谷藤野瀬村寺
秀畠入	竹千蘭松澄秀木前有澄大樹高小正雲秀大玉紅願 A 松千澄樹椿蘭廣竹安苑大澄こ高清こ 扇葉鼎村春畠歌曜橋秋春雲原崎汀華溪水雲松落綠 I 村葉春原翠鼎島扇波書阪春だ井月前橋 大正生阪
阿浅野千伊春鶴君子子	山山森茂増堀別福深日早根永仲富積田須志清鹿紫齊近小小川河小小小小大樫江梅海生碓岩今伊石生新足 木田江府田堀高坂津瀬井西澤田中田水水田雲藤藤本岡野野川石田原津方井根閑藤橋駒井立 理由由世寺寺寺寺
嶋波柴佐坂斎奇近込小小黑工木菊神川亀鑓金加片小小萩冲大遠梅植宇岩今井猪井伊市市板石池新新 谷藤本藤藤藤山林沼野柳藤藤村原池田元崎井田岡藤野高能原野沢藤山田井上井野又上藤川川垣川田井井 富元知	炎鉢直翠華勢幸信キ清右梅飛蓉宏游蕙雅耶香起紀志煌靜淑見くさ南星礼加萩輝星と茂虹代美 恵梨良さ知荻藤万清 秀風子芳秀子泉子洗真姫龍汀枝溪子子江月枝子代ら扇子都光峯祥子夫祥子弘峯霞佑子子花雪秀
光千硯昌蕙澄稻英京蒼清大枝た大竜若詣う正初生鬼梓福東渡大こ英泉伏玉春高渡椿高澄高澄誉澄千和硯誠八華正大生紳 昭葉水苑書春毛峰橋陽月阪苑か雲泉葉扇の華香大高江山峰辺阪こ峰会華藻汀陵辺翠真春真春葉平水和戸祥華阪大玄	大京北風樹東竹玉楮も英調生玉 幕千正書京稻秀澄大や上洞秀大玉高白大一艸玉石春大泉秀翠大英や有た澄竜土正澄書 選阪陸書原伯扇川翠く峰布大川 幕張葉華徑橋毛水春阪ま泉書水阪川陵珠阪草玄川舟丹阪峰ま秋か春泉氣華春游 外155六吉遊遊山柳谷安森村武宮湊丸松松前堀細福深廣平濱演花橋野丹西永中中内渡徳辻筑近田田田武高高鈴杉神新庄 名波田佐佐本知鳴田山藤下尾島重岡田川村山澤地田田里本中羽山岡村澤藤子田井池中中玉山橋木田保行司 名羅十名拳佑四香一真隆美沙藤龍蕙樂美昌翠翠律幸魯貴歌佳美美陽竹智都喜惠裕小一雅 古紀萩洋宏柳良蒼哲花惠幸利祥佳滿咏 略玉子子風米紀扇子子谷峰翠子子舟景子子春子子月幸和一雪子子子人紀琴子綾塘子峯子子芳子子源泉苑子風子子

かな研究部 特選 松丸 愛石

千葉

H

N

I

A

前橋

大正

生

阪

阪

大

玄

かな研究部成績表

大京北風樹東竹玉楮も英調生玉 幕千正書京稻秀澄大や上洞秀大玉高白大一艸玉石春大泉秀翠大英や有た澄竜土正澄書  
選阪陸書原伯扇川翠く峰布大川 幕張葉華徑橋毛水春阪ま泉書水阪川陵珠阪草玄川舟丹阪峰ま秋か春泉氣華春游  
外155六吉遊遊山柳谷安森村武宮湊丸松松前堀細福深廣平濱演花橋野丹西永中中内渡徳辻筑近田田田武高高鈴杉神新庄  
名波田佐佐本知鳴田山藤下尾島重岡田川村山澤地田田里本中羽山岡村澤藤子田井池中中玉山橋木田保行司  
名羅十名拳佑四香一真隆美沙藤龍蕙樂美昌翠翠律幸魯貴歌佳美美陽竹智都喜惠裕小一雅 古紀萩洋宏柳良蒼哲花惠幸利祥佳滿咏  
略玉子子風米紀扇子子谷峰翠子子舟景子子春子子月幸和一雪子子子人紀琴子綾塘子峯子子芳子子源泉苑子風子子